

グローバル人材育成のための魅力ある教育施策 委員意見の整理と課題

1 第1回での委員の意見

(1) 【英語を活用したコミュニケーション向上プロジェクト】

- 小学校の新しい英語教育においてはもちろん、中学校においても楽しく意欲的に英語を学び続ける姿を期待したい。
- 海外生活経験を持ち、地域のことに詳しい人材を発掘し、英語教育に生かしたい。
- 日常的に英語を話せる環境を創り出したい。
- 同年代の外国の人と話をするという機会があれば、臆せず英語を使おうとする姿勢が身につくのではないかと。

(2) 【しずおか学】

○「しずおが学」で教えるべきこととは（内容）

- ・静岡市の「職人の技」にも注目したい。・地域に伝わる伝統文化にも注目したい。
- ・副読本※を活用することが大切。

※すでにあるもの（社会科副読本・しずおか学-Book）新規に作成するもの（しずおか学副読本）

- ・静岡型小中一貫教育グループ校は、各地域の実態に応じた分野を選択し活用すべき。

静岡市ならではの素材に視点をあてた学び（地域との連携）

○「しずおか学」の発信方法

- ・子どもが「しずおか学」で学んだことを、インターネットを使って発信できるようにしたい。
- ・「しずおか学」副読本を冊子として、子どもの他、広く市民も手にできるようにしてほしい。

2 協議のポイント

(1) 【英語を活用したコミュニケーション向上プロジェクト】

- 小学校と中学校の英語を連続したものとして学ぶためには、どのような取組が必要か。
- 子どもたちが日常的に英語を聞く機会、話す機会をどう確保するか。

(2) 【しずおか学の展開】

○「しずおか学」で学ぶべきことを、さらに充実させていくためにはどのように進めていくか。

○「しずおか学」を学校教育の中で完結するのではなく、広く発信するためにはどのような取組が必要か。

3 今後、検討が必要な取り組み

(1) 【英語を活用したコミュニケーション向上プロジェクト】

- 静岡市では、どのような英語カリキュラムを策定するのか。
- 英語を教える人材をどう充実させるか。
- 子どもたちが、日常的に英語を聞き・話し、意欲を持って取り組む環境をどう整えるか。

(2) 【しずおか学の展開】

○市民も手軽に「しずおか学」を学ぶためには、副読本をどのような形態で世に出すべきか。

資料1 【静岡型小中一貫英語教育の基本指針（骨子案）】平成30年3月策定予定

1 目標

異なる文化の人々と自信を持ってコミュニケーションをとることができ、地元への愛情を持ちながら国際的に活躍できる子どもを育てる。

2 目指す児童生徒像

- 自信を持って英語でコミュニケーションをする
- 地域のことを英語で語る
- ふるさとへの愛情を持ち、国際的な視野を広げる

3 ワクワク3視点 ～「間違ったら・・・のドキドキ」を「伝えたい！のワクワク」に～

(1) 授業の充実

- ①静岡型小中一貫英語教育カリキュラム【別紙1-1】
- ②学習教材 小学校3年生～中学校3年生まで「しずおか学」と連携した独自教材を活用
- ③評価・モチベーション高揚 英語検定等の外部試験を活用

(2) 指導者の英語力の向上

- ①研修の充実 ②英語力のある教員の採用 ③小学校専科教員の加配
- ④英語が堪能な地域人材（GET）の活用 ⑤ALTの活用拡大

(3) 授業以外で英語に接する機会の拡充

- ①イングリッシュカフェ、イングリッシュキャンプ
- ②イングリッシュデイ
- ③掲示物に英語を織り交ぜるなどの環境づくり

4 地域との連携

地域全体で英語を使う機会、英語に触れる機会を設ける。



資料2 【しずおか学】

1 ねらい

地域や静岡市に愛着と誇りをもつ静岡市民を育てるとともに、広く社会や世界に目を向けて、その発展に寄与する人材の育成を目指す郷土を舞台とした学習

2 目標（つけたい力）

- (1) 身近な地域や素材に誇りや愛情を感じ、人々の営みに共感する力
- (2) 地域や身近なところから問題や課題を見つけ、思考判断し、表現していく力
- (3) 生きて働く静岡に関する知識や技能
- (4) グローバルな視点で考え、身近な地域で行動していく力

3 学習内容【別紙1-2】

- (1) これまでの教科学習等の範囲での取組（主に生活科・社会科・道徳に実施）
- (2) 新たに構築する静岡市独自の取組（主に総合的な学習の時間の学びを体系化）副読本を作成

4 学習方法【別紙1-3】

- ・新たに構築する静岡市独自の取組では、各教科等で身に付けた知識や技能を活用・発揮することができる、教科横断的・総合的な学びを重視
- ・具体的な活動や体験を重視（地域素材を活用した学習、地域行事への参加・参画等）

5 学習を支え、発展させる3つの資産

「温かな学級・学校・学年交流」「地域の人々（学校応援団・CS等）」「静岡市の人的・物的資源」